

日時：令和4年6月30日（木）午後3時30分～午後5時

委員：6名

学校側：11名

1. 学校長挨拶

「住吉高校は今年100周年を迎える。このような節目の年に校長就任を光栄に思う。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大は、海外研修の見直し等、本校の教育活動に少なからず影響を与えている。
- ・このような状況ではあるが、1人1台端末が進められ、オンライン交流の実施など新しい取り組みも始めている。」

2. 出席者紹介

委員6名全員の出席をいただいた。

3. 会長の選出及び会長挨拶

4. 今年度の本校の取り組みと課題等について

(1) 令和4年度学校経営計画について

— 中期的目標：①学力向上と進路実現

②国際・科学高校としての質的な深化

③世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

- ・なお、今年度、府立高校において、スクールミッション（学校の存在意義や期待される社会的役割等を定義するもの）と、それを実現するための教育活動方針（スクール・ポリシー）を策定することとなっている。今後、学校運営協議会の場で素案をお示しするので、ご意見をいただきたい。

(2) 総合科学科の取り組みについて

— ・国際科学発表会、サイエンスカフェの紹介

- ・次期SSHに向けたキーワードを「まきこむ探究活動」とし、多くの生徒が外部とつながり「本物」と出会う探究活動の実現をめざす。

(3) 国際文化科の取り組みについて

— ・水曜7限にSuper English・Super Koreanの授業を実施中、土曜日にTOEIC講習を実施中。

(4) 国際部の取り組みについて

— ・国際交流行事については、オンライン等を利用した代替案を計画。

- ・ユネスコスクール活動等について

(5) 教務部の取り組みについて

— ・3学期制へ移行

- ・1年生から観点別学習状況による評価となる。

(6) 進路指導結果及び今年度の取り組みや目標について

— ・令和3年度入試の合格者数は、国公立大学は僅かながら回復、私立大学は続伸

- ・セルフチェックシートを用いた学習習慣の確立

(7) 生活指導部の取り組みについて

— ・遅刻常習者の指導が課題。当該生徒とコミュニケーションを取り、必要な支援を明確にするなど、指導の質の向上をめざす。

- ・頭髪指導、自転車のマナー指導

・自治会の取り組みについて

— ・体育祭、自治会選挙、学園祭、学年行事等

5. 質疑と協議

○ 共通テスト初年度の影響はあったか。

→ 全国と同様、平均は下がった。出願先を変更するか悩んだ生徒もいたが、結局、変えずに出願し、合格していた。

- 点数に左右されすぎずに受験してみるのがいいようだ。
- 『情報』は、配点等不明な点が多い。私立高校は3年次に補習対応を考えているようだ。『情報』の専任教員の配置は東京都で6割程度。」
- ①体育祭について役員として体育祭を見せていただいた。生徒がいきいきとして楽しそうだった。
②学校説明会・SSHの発表会の回数が少なかったのは残念。
③学校経営計画について
『マナー・規範意識等の育成』とあるが、挨拶はマナーの基本。雰囲気明るくする。自立はいいが放任はいけないと思う。いけないことを注意してあげてほしい。
- ①スクールポリシー（育てたい資質・能力）については、取り組んでいることを発信する機会ととらえる考え方もある。
②スクールポリシーの説明責任として、観点別評価を位置付けることができると思う。
③校則については、他校において生徒たちで校則を話し合わせる取り組みがあった。結局、校則は必要という結論にたどり着いた。
- ①探究活動のキーコンセプトは「ひらく」だと思う。活動をホームページに載せるのも「ひらく」。
②学校経営計画の『5つのつきたい力』は大切。ある私大では建学の精神を知らずに入学してくるという話を聞く。建学の精神を学生とともにつくるという発想が出ている。
③GIGAスクール構想は、産業社会的な視点からだけでなく、民主社会を健全に機能させる手段として構想してもいいと思う。社会をつくるという視点で推進していく。それを「ひらく」。
④これからの時代『with コロナ体制』を前提に、困っている点をみんなで共有することが必要。
- 学校は地元の信頼がないと成り立たない。校則も地元が認めるものであることが大切。
- ①体育祭の画像に関して、せっかくの取り組みが保護者に伝わっていないのではないか。（学園祭で）どこかの教室で見られるようにするとよいのでは。
②遅刻の取り組みで、ワークシートはよい。保護者の目にもふれる機会となる。
③頭髪指導については、校則は大事ではあるが、線引きが難しい問題でもある。人間関係による指導ということだが、深く議論をしてもらいたい。
- スクールミッションについて、次世代を担う生徒たちに考えさせてはどうか。

6. 校長謝辞

- ・着任してから、早朝、校門に立ち生徒にこちらからあいさつしている。生徒のほうもあいさつを返すようになり、少しずつ変化している。
- ・生徒の力を信じて、話し合いながら進めていくのが肝要かと、貴重なご意見を頂戴して改めて感じた次第。

7. 次回開催

第2回 令和4年10月27日（木）15時30分から

第3回 令和4年2月22日（水）